やさしい未来都市！
東広島

Ｓ－ＴＯＷＮプロジェクトの進捗報告

■Ｓプロジェクト

プロジェクト名	S2-1 スマートハウス化の支援（家庭用蓄電池等の導入支援）	S2-2 産業部門等への省エネ・創エネ設備の導入支援
事業概要	省エネ、創エネ推進のため蓄電池等の住宅への設備導入を支援する。	産業部門などの事業者における脱炭素化を図るため、再エネ設備や省エネ設備等の導入を支援する。
進捗状況	令和３年度のスマートハウス化支援は、7月下旬に予算額に達したため、申請を締め切りました。	スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援は、補助金採択企業　3件、CO_2診断決定企業　32件であった。
現時点の課題	半導体不足による納品の遅れなどから変更や中止申請があった。	国補助申請の時期と相談支援開始時期が短かったことから国補助金申請への件数が少なかった。
令和4年度の方向性	スマートハウス化支援は、前年と同様の補助メニューで継続する。	スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援は、切れ目のない支援を行うため令和3年度から準備し、4月から申請に入れる体制を整えている。
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	スマートハウス化支援補助金 147基(150基)	スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援 3件(10件)
目指す姿	家庭部門で脱炭素化の取組が進み、次世代環境都市の基盤を形成する。	産業部門、業務その他部門で脱炭素化の取組が進み、次世代環境都市の基盤を形成する。

■Ｓプロジェクト

プロジェクト名	S2-3 市内再生可能エネルギーの導入支援	S2-5 スマートコミュニティモデルの構築
事業概要	再エネの地産地消と経済循環を促進するため、卒FIT買取スキームを検討する。	市内におけるスマートコミュニティの構築やエネルギーの面的融通に向けて協議を行う。
進捗状況	東広島スマートエネルギー株式会社の買電事業で「えねちょ」サービスを利用し、卒FIT電源の買取スキームとして検討している。	第2回の脱炭素先行地域の申請（令和４年８月頃予定）に向けて、関係者と準備中 福富支所周辺の公共施設のエネルギー面的融通について、社会実装に向けて関係者と協議中
現時点の課題	電力需給バランスの観点から買取件数は慎重に進めていく必要がある。	再生可能エネルギーを導入した場合の系統接続に課題がある。
令和4年度の方向性	4月から50件程度の電力寄附（ポイント化）を開始予定	脱炭素先行地域の申請（令和4年8月頃）
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	卒FIT買取件数 0件(100件)	長期目標のため、KPIを設定していない。
目指す姿	市内で生み出されたエネルギーを市内に還元するエネルギーの地産地消を推進する。	脱炭素先行地域として、福富支所周辺地域と広島大学で連携し、電力の地産地消、面的融通を実施する。

■Ｓプロジェクト

プロジェクト名	S2-6 市有施設での再生可能エネルギー発電の実施等	S2-7 環境配慮型の災害に強いコミュニティの構築
事業概要	市有施設の再エネ設備導入に向けて検討を行う。	環境に配慮した災害に強いコミュニティの構築のため、集会所や避難所等への非常用電源の確保を行い、地域マイクログリッドの構築等を推進する。
進捗状況	市有施設等の再エネポテンシャル調査を令和4年度実施予定	広島大学と連携した地域マイクログリッドの検討は補助金不採択のため、調整中
現時点の課題	将来的にオフサイトPPAなどを検討する場合は、系統接続に課題がある。	補助金不採択の理由として、実現性や社会実装を視野に入れたプレイヤーなどの検討を進める必要がある。
令和4年度の方向性	市有施設の再エネポテンシャル調査を実施	福富支所改修をESCO事業で実施予定
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	長期目標のため、KPIを設定していない。	ESCO事業1件(2件)
目指す姿	公共施設の脱炭素化を促進する。	地域内に再エネ電源を確保し、災害にも強い地域マイクログリッドを形成する。

■Ｔプロジェクト

プロジェクト名	T2-4 環境学習プログラムの開発	T2-5 (仮)環境学習センター（Web版）及び環境学習拠点の設置
事業概要	将来世代の環境学習を充実させるため、自ら学ぶ機会を提供し、児童及び生徒の主体的な学習支援が行える環境学習プログラムなどの開発を推進する。	市民の環境学習拠点や（仮）環境学習センター（Web版）を設置し、地球温暖化対策やＣＯ$_2$排出量などの情報提供等を推進する。
進捗状況	環境学習プログラムの開発は、試験的に出前講座の動画を作成している。	環境学習拠点（エコパーク）の来場者数は、3月9日末時点で2,257人 環境学習センター（Web版）は、外部サイト（COOL CHOICE、環境フェア等）の統合やサイト構築に向けて、調整中
現時点の課題	環境学習プログラムは、動画撮影及び編集に相当時間を要している。その他、アプリ開発などは専門的な協力者を探している。	環境学習センター（Web版）は、デザインやコンセプトなどを広告代理店や関係者と検討する必要がある。
令和4年度の方向性	環境学習コンテンツ（動画の作成）の充実を図る。	環境学習センター（Web版）を立ち上げる。
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	プログラム利用人数 0人（1,500人）	Web閲覧数 0人（2万人）
目指す姿	将来世代が主体的に学べる場を提供し、環境意識の高い世代の育成を目指す。	誰もが自由に環境情報を入手出来るようにする。

■Ｔプロジェクト

プロジェクト名	T2-6 SDGs未来都市東広島推進パートナー制度の推進	T2-7 エコスクールの推進
事業概要	SDGs未来都市東広島推進パートナー制度を通じ、SDGsに対する意識醸成を図る。	環境にやさしい学校教育施設（エコスクール）を推進するため、学校施設に再エネ設備を導入し、環境教育の教材としても活用する。
進捗状況	スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援で16企業がパートナー登録	安芸津中学校体育館に太陽光パネル等の設備を設置し、エネルギーマネジメントシステムから発電量などをモニターで表示することで環境教育も行っている。
現時点の課題		改修計画を作成することから令和4年度はエコスクールの改修はない。
令和4年度の方向性	スマートオフィス・スマートファクトリー化相談支援で、登録増を図っていく。	エコスクールは、実施せず改修を計画的に進めるための検討を行う。
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	市民のSDGs認知度向上 54%（12%） ※令和3年度市民満足度調査（知っていると回答した人）	長期目標のため、KPIを設定していない。
目指す姿	SDGsの認知が広がり、持続可能な社会を形成する。	エコスクールを市内に増やしていき、学校施設の脱炭素化を進めるとともに、環境教育も推進する。

■Ｔプロジェクト

プロジェクト名	T2-8 新モビリティサービス（MaaS）の推進
事業概要	地域の持続可能な交通網の形成に資する移動サービスについて、実証・事業化を推進する。
進捗状況	年度内に３回の会議を実施し、オンデマンド交通は継続しつつ、大学内のキャンパスで自動運転車両を走行している。11月から一部公道も手動運転に切り替えて走行している。
現時点の課題	法規制のため公道での自動運転は難しい。
令和4年度の方向性	引き続き関係者と協議を進め、自動運転の試験を進める。
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	長期目標のため、KPIを設定していない。
目指す姿	MaaSの社会実装に向けて実証実験で得た知見を蓄積し、新たな交通網を形成する。

■Oプロジェクト

プロジェクト名	O2-1 フードロスの削減推進と食品残渣リサイクルループの構築
事業概要	市内の中心市街地をフィールドとして、事業所や家庭から発生する食品残渣（一般廃棄物）を地域センター等で拠点回収し、たい肥化を進める。
進捗状況	令和3年度ミミズプロジェクト支援等業務を実施し、市内8施設9か所にミミズコンポストを設置し、資源循環の啓発を実施 市内給食センターの給食残渣を活用し、たい肥化を開始 ミミズコンポストについて、環境学習受講者は延べ889人
現時点の課題	地域住民に対する廃棄物循環意識の醸成 更なる食品残渣の資源化
令和4年度の方向性	令和4年度ミミズプロジェクトでは、新たに市内3か所にミミズコンポストを設置予定 更なる食品残渣や有機性廃棄物の活用に向けた協議を進める。
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	学校給食センター生ごみ104t回収・84tたい肥化 ミミズコンポスト生ごみ1tたい肥化 計　たい肥化 85t（312t）
目指す姿	資源の有効活用サイクルを確立し、ゼロエミッションを実現する。

■Oプロジェクト

プロジェクト名	O2-2 有機性廃棄物の有効利用	O2-3 広島中央エコパークフィールドとした産学官共 同連携プロジェクト
事業概要	「廃棄物」を有用な資源として捉え、家庭や事業所から排出される生ごみ等の有機性廃棄物の有効利用を推進する。	廃棄物からのエネルギー抽出等の仕組みの構築等を推進する。
進捗状況	HIVECが牛の敷料生産用として、もみ殻の活用を開始した。 もみ殻の活用については、肥料化や固形燃料化などJA他関係企業と協議中	広島中央エコパークをフィールドとした実証実験について、もみ殻を脱水に使用している繊維系脱水助剤として活用するために、JAや日立造船などと協議中
現時点の課題	もみ殻等の有機性廃棄物の利活用	実証実験に向けた協議が進んでいない。
令和4年度の方向性	有機性廃棄物の利活用の推進	実証実験に向けた協議
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	長期目標のためKPIは設定していない。	長期目標のためKPIは設定していない。
目指す姿	資源の有効活用サイクルを確立し、ゼロエミッションを実現する。	資源の有効活用に向けた先端技術を実証する。

■Wプロジェクト

プロジェクト名	W2-1 木質バイオマス活用促進	W2-2 市民主体の里山活用促進
事業概要	森林保全や里山再生、新たな雇用創出等の地域課題解決を目指し、木質バイオマスを地域で有効活用する仕組みを確立する。	市民が森林に関心を持って行う、主体的な森林整備や環境教育、ヘルスケア、獣害対策等の副次的効果を期待した新たな発想に基づく、森林資源の有効活用、空間利用を推進する。
進捗状況	広島大学と共同でGISを活用した木質バイオマス資源量の把握。 バイオマス発電について、民間事業者（２者）と協議中	薪・ペレットストーブの導入支援（令和3年度は11件導入） 薪ストーブ用木材生産者に区画提供 令和3年7月にエコネットひがしひろしま主催「脱温暖化キャラバンＩＮ豊栄　里山ネイチャーデイキャンプ」を開催 植林をして森林公園・キャンプ場とする取組み
現時点の課題	木質バイオマス資源の活用促進	市民の森林や森林資源活用の意識
令和4年度の方向性	木質バイオマス資源の活用促進	市民の森林や森林資源活用の意識向上
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	賀茂バイオマスセンター供給量1,928t（1,500t）	ネイチャーデイキャンプ参加者数30人（養成講座への参加者数45人）
目指す姿	森林保全や里山再生、新たな雇用の創出等の地域課題解決を目指し、木質バイオマスを地域で有効活用する仕組みを確立する。	森林保全や里山再生、新たな雇用の創出等の地域課題解決を目指し、木質バイオマスを地域で有効活用する仕組みを確立する。

■Nプロジェクト

プロジェクト名	N2-1 EV、燃料電池車等の公用車への導入	N2-2 EV、電動バイクなどの普及のためのシェアリング検討等
事業概要	公用車にEV、燃料電池車等を導入する。	EV、電動バイクのシェアリングを促進し、運輸部門のCO2排出量を削減する。
進捗状況	25台の公用車をハイブリット車のフレアに更新した。	電動バイクのシェアリングは大阪大学が実証実験等を実施しており、その知見をエネコムから情報収集し、継続検討中
現時点の課題	軽トラックなどの一部の車両は、代替車両が現時点で適当な車両がないため、令和5年度以降の更新としている。	電動バイクシェアリングは、本格的なサービスを想定した場合は、サブスクリプションで月1万円程度と高額になるため、安価な事業スキームを検討中
令和4年度の方向性	燃料電池自動車トヨタミライを令和4年度から導入し、啓発等に活用する。また、フレア18台を更新予定	電動バイクシェアリングサービスについて、エネコムと検討する。
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	次世代自動車導入 25台(18台)	長期目標のため、KPIを設定していない。
目指す姿	2030年までにすべての公用車を、次世代自動車に更新する。	EV、電動バイクのシェアリングにより、効率的でエコな移動手段を普及促進する

■Nプロジェクト

プロジェクト名	N2-5 ブロックチェーン技術等の活用
事業概要	Ｊ－クレジットなどのカーボンオフセットや、ブロックチェーン技術を活用したCO_2排出量の削減方法を検討する。
進捗状況	ブロックチェーン等の技術を活用する取組みとして、環境配慮行動をトークンとして、運用する取組みをエネコムと継続検討中 Ｊ－クレジットは令和4年度から市民の太陽光発電による自家消費と森林保全（間伐）による吸収源対策から創出する取組みを実施予定
現時点の課題	ブロックチェーン技術は、スキーム及びプレイヤーを検討中
令和4年度の方向性	○ブロックチェーン技術のスキームは、引き続きエネコムと検討する。 ○Ｊ－クレジット事業2プロジェクト（再エネ及び森林保全）を実施
ＫＰＩ ※( )内は、目標値	長期目標のため、KPIを設定していない。
目指す姿	Ｊ－クレジットやブロックチェーン技術を活用して、これまで見えなかった環境配慮行動を価値化し、市内に還元することで市内のCO_2排出量を削減する。

■その他プロジェクト

プロジェクト	項目	概要
S2-4	自転車活用推進計画・自転車ネットワーク計画の策定	自転車が通行する道路のあるべき姿とともに、低炭素移動手段の活用推進等を検討するため、自転車活用推進計画及び自転車ネットワーク計画を策定する。
T2-1	環境関連ビジネスの育成	環境ビジネスの活性化、市内企業の付加価値の創出、環境イノベーション技術を支える人材育成のため、東広島ビジネスサポートセンターHi-Biz（ハイビズ）と連携した環境関連ビジネスセミナー等を開催する。
T2-2	S-TOWNプロジェクト認定制度	域内における資源循環を促進するため、廃棄物を再資源化（リサイクル）した製品を認定し、市内での利用促進を図るとともに、市の公共事業等に活用する。
T2-3	S-TOWNプロジェクトファンドの創設可能性調査	環境配慮型の事業を金融的に支援するため、既存の支援制度との整合性を図りつつ、金融機関等と連携し、ファンド創設の可能性や信用保証等について調査・検討を行う。
W2-3	木質バイオマス利活用に係る付加価値化等実証	木質資源の有効活用を図るため、薪・木質ペレットストーブの普及に向け、ストーブの小型化やチムニーレス化等の技術的研究を実施する。
N2-3	低炭素型公共交通の普及促進（燃料電池・CNGバス、タクシー等）	市内公共交通の低炭素型車両（燃料電池、ハイブリッド、CNG車両）への移行を図るため、民間事業者に対する補助をはじめとする支援制度について検討する。
N2-4	大規模エネルギー利用者に対する次世代エネルギー活用支援	大規模エネルギー利用者における、自事業所のエネルギーの高効率化、エネルギーやCO2排出量低減などを推進するため、次世代エネルギーに係る設備改修等による取組みを検討する際の支援を行う。